

女性の寝汗と睡眠障害に対して 桂枝加竜骨牡蛎湯が有効であった症例



金 雅子 先生

医療法人明青会 あやこレディースクリニック

2002年 大阪大学医学部 卒業、大阪大学医学部附属病院 産婦人科
 2003年 独立行政法人 大阪労災病院 産婦人科
 2005年 大阪大学医学部附属病院 産婦人科／大阪大学大学院医学研究科
 2007年 独立行政法人 医薬基盤研究所 研究員
 2008年 東洋堂土方医院／財団法人 高雄病院 京都駅前診療所(非常勤)
 2012年 あやこレディースクリニック 開院

はじめに

一般に女性では、自律神経系の乱れに伴いさまざまな症状が出現する。特に更年期(周閉経期)では、女性ホルモンの分泌が減少することで、ホットフラッシュ、発汗、めまい、動悸、不眠などの様々な心身の不調が現れる。また、20~30歳代の若年女性でも月経周期に関連する発汗(寝汗)を訴えることも少なくない。

このような症状は、ストレス、食生活の乱れ、過労、睡眠不足などの環境要因によっても影響を受ける。

症例 1

症 例：56歳 女性。

主 訴：発汗・ホットフラッシュ。

現病歴：閉経(55歳)頃よりホットフラッシュ、発汗を自覚していた。他院で加味逍遙散を処方されているが、発汗が改善しなかったため当院を受診した。

所見／東洋医学的所見：図1に示す。

治 療：陰陽失調(不和)に対し、桂枝加竜骨牡蛎湯5.0g/日の処方を開始した。

臨床経過：ホットフラッシュ、発汗が半年以上続いている最中に当院を受診した。加味逍遙散に加えて桂枝加竜骨牡蛎湯5.0g/日の服用を開始したところ、短期間で発汗は改善した。冬場も継続投与したが症状の出現はほぼなく、X+1年1月に処方を終了した。同年5月に気候が暑くなるのに伴い発汗症状が出現したが、漢方治療を再開し症状は改善した(図2)。

図1 症例1 56歳 女性

主 訴

発汗、ホットフラッシュ。

身体所見

身長 159cm、体重 53kg、BMI 21

東洋医学的所見

舌診：淡紅 薄白苔、舌下動脈怒張(-)。
 脈診：弦 細 沈。

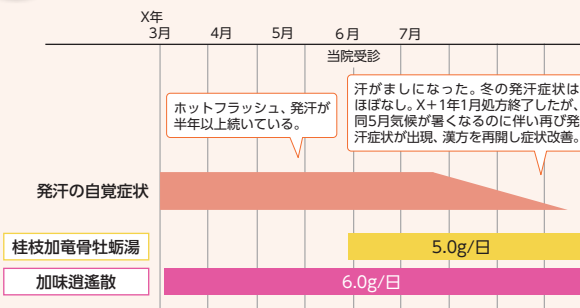
現病歴

閉経(55歳)頃よりホットフラッシュ、発汗を自覚していた。他院で加味逍遙散を処方されているが、発汗が改善しなかったため当院を受診した。

初診時診断 (X年6月)

陰陽失調(不和)に対し、桂枝加竜骨牡蛎湯5.0g/日の処方を開始した。

図2 臨床経過(症例1)



症例 2

症 例：35歳 女性。

主 訴：月経中の寝汗。

現病歴：33歳頃より、特に月経期間中の寝汗が頻回かつ

増悪してきた。夜間に寝汗のため2~3回起きることも多く、毛髪が濡れるほど発汗することもあった。パニック障害にて約10年間、SSRIの服用を続けている。

所見／東洋医学的所見：図3に示す。

初診時診断 (X年3月)：陰陽失調(不和)、腎陰虚と診断し、桂枝加竜骨牡蛎湯、六味丸の処方を開始した。

臨床経過：当初は桂枝湯7.5g/日(分3)より治療を開始す

図3 症例2 35歳 女性

主訴

月経中の寝汗。

所見・検査所見

身長 161cm、体重 55kg、BMI 21
甲状腺機能やその他の内科的検査で異常は認めない。

東洋医学的所見

舌診：やや紅。
脈診：やや沈 細 数。

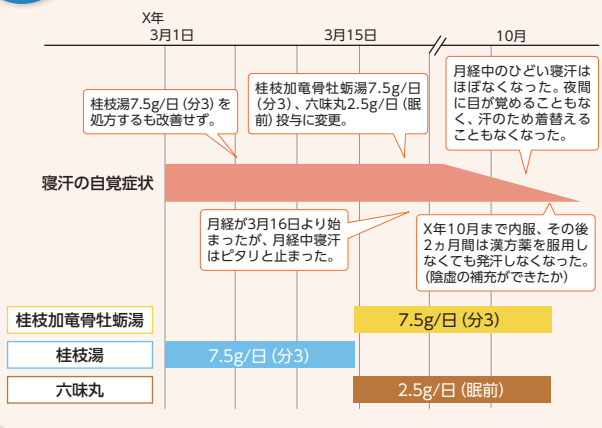
現病歴

33歳頃より、特に月経期間中の寝汗が頻回かつ増悪してきた。夜間に寝汗のため2~3回起きる。毛髪が濡れるほど発汗する。パニック障害にて約10年間SSRIを継続服用中。

初診時診断 (X年3月)

陰陽失調(不和)、腎陰虚と診断し、桂枝加竜骨牡蛎湯7.5g/日(分3)、六味丸2.5g/日(眠前)の処方を開始した。

図4 臨床経過 (症例2)



るも症状は改善しなかったため、桂枝加竜骨牡蛎湯7.5g/日(分3)と六味丸2.5g/日(眠前)に変更した。月経が3月16日より始まったが、月経中の寝汗はピタリと止まった。その後も処方を継続したが、月経中のひどい寝汗はほぼなくなり、夜間に目が覚めることもなく、汗のため着替えることもなくなった。

同年10月まで服用し、その後2ヵ月間は漢方薬を服用しなくても発汗はなく、陰虚の補充ができたと考えられる(図4)。

考察

症例1について。更年期症状には加味逍遙散が頻用されるが、これは肝鬱気滞に対して疏肝することでイライラなどの症状の改善とともに、ホットフラッシュ・発汗にも一定の効果があることが報告されている。しかし、強い発汗に対する効果が弱いため、桂枝加竜骨牡蛎湯を追加することにより効果を認めた症例と考えた。

症例2について。発汗に対し桂枝湯による営衛調和の力だけでは弱く、桂枝加竜骨牡蛎湯に含まれる竜骨・牡蛎による収斂固澁作用により発汗への効果をより高めることができたと考えられる。また、竜骨・牡蛎の安神作用もパニック障害治療中の患者にとってはプラスになったと考える。寝汗は一般的には陰虚体質がその背景にあるが、本症例では六味丸を上乗せすることが奏効した。

まとめ

月経中、特に悪化する発汗については腎が関連すると考えた。また、子宮(胞宮)にかかわる任脈の不調も腎からのアプローチが奏効することが多い。

桂枝加竜骨牡蛎湯は、遺精・遺尿の治療に使用されるが、竜骨・牡蛎は渋味・鹹味を持ち、腎を主り体内の津液を収斂・固澁させることにより本方剤が奏効したと考える。

Discussion

木村：症例1では加味逍遙散でホットフラッシュの改善はみられませんが、桂枝加竜骨牡蛎湯の追加で改善しました。両方剤の鑑別のポイントを教えてください。

金：発汗・寝汗が強いときは加味逍遙散では効果が弱い場合があります。その場合は、陰陽のバランスを整える桂枝湯の加減方である桂枝加竜骨牡蛎湯を使用します。

木村：六味丸を上手にお使いの印象があります。六味丸を使用するコツなどを教えてください。

金：日中は汗がなく、夜間だけの寝汗があるなどの陰虚の程度が強いときに腎陰虚の基本処方である六味丸を使用します。投与量は患者さんに合わせて調節しています。

木村：寝汗に対しては他にどのような処方を使用されていますか。

金：寝汗だけなら六味丸を使うことが多いですが、日中も汗が出ている場合なら補中益気湯、人參養栄湯、十全大補湯なども使います。